



エリート
スマートさ際立つ、先駆者の完全ワイヤレス

小さく美しく タフな万能型

ノイキャン完全ワイヤレスの決定版ともいべき完成度!

普段使いからスポーツ、ビジネスシーンまで、幅広く使える新作イヤホン「Jabra Elite 4 Active」の魅力にオーディオ評論家、折原一也が迫る。

文/折原一也 Kazuya Orihara

オールマイティな魅力を持つ会心作

Jabraは補聴器や業務用ヘッドセットなどを手掛けるデンマークの老舗企業、GNグループのコンシューマー向けブランドであり、国内参入当初からビジネスにも通用する通話性能や、スポーツにも使える装着性で高評価を獲得してきた。そんなJabraが投入する最新モデルが、この「Elite 4 Active」である。アクティブノイズキャンセリング機能を搭載し、周囲の音を聞くことができるヒアスルーにも対応。Google FastPairなど、最新ファンクションも備える。そして、JabraのEliteシリーズ共通アプリ「Jabra Sound+」にも、もちろん対応している。

手にしてみると、非常にコンパクトで本体にJabraロゴがプリントされている以外、現行ラインアップ「Elite 3」とほぼ同じ。“ほぼ”と断っているのは、Elite 4 Activeの方が若干大きいからなのだが、その差は1mm以下。完全ワイヤレスイヤホンとして、かなり小型の部類に入る。イヤホン本体は滑りにくいマット加工が施されており、欧米で人気のスポーツとファッションをミックスした“アスレジャーデザイン”を採用している。

特筆すべきは、Jabra伝統ともいえる高いフィット感だ。外から見

えるプレート部は三角形で、実際のサイズよりもさらに小型に見えるが、耳の内側で若干丸く膨らむ形状をしている。人間工学に基づいたウイングフリーデザインで、この筐体による耳に装着した際の“収まりのよさ”は絶妙だ。ポンポンと頭を回しても、小走りにランニングをしてみても、全くズれる気配がない。また、運動用に作り込まれたElite Activeシリーズだけあって、防塵防水性能はIP57準拠、かつ耐汗仕様まで揃えられている。また、イヤホンの操作は物理ボタン式。汗などで指が濡れていても確実な操作ができる所も、考え抜かれたポイントだ。

今回はElite 4 Activeを、iPhoneと組み合わせてチェックしてみた。まずノイキャン機能についてはシンプルなON/OFF式で、音楽リスニング中のみ有効になる。Jabra Sound+アプリを通した「ANCのパーソナライズ」による調整は可能で「ヘッドセットのパーソナライズ」>「アクティブノイズキャンセル (ANC)」を選択する。実際に騒音のある場所で、上下9段階のバーを調整して、自分に最適なボジションを選択し、さらに左右のANCのバランスも調整できる。実際

ノイズキャンセリング完全ワイヤレスイヤホン

Jabra Elite 4 Active

¥14,850(税込) ▶投票 No.003

SPEC ●通信方式:Bluetooth 5.2 ●コーデック:SBC、aptX ●ドライバー:6mm ●連続再生時間:約7時間(ケース込み28時間) ●重量:5g ●付属品:イヤージェル(S/M/L)、USB Type-C充電ケーブル



に実行してみると、騒音の落ちる帯域とホワイトノイズの出方が劇的に改善する。騒音の種類を問わず、全帯域をバランスよく低減してくれる印象で、特に中域の騒音を抑えられるのがポイントと感じた。ANCをONにすれば、室内のエアコンなどの騒音はほとんど消え、掃除機のようなキツめの騒音の低減にも有効だ。外音取り込み機能の「HearThrough」は5段階で調整可能。最大まで上げると、直接耳で聴くよりも高感度に周囲の音を取り込んでくれる。通話用マイクは4マイクテクノロジーを採用。実際にZoomのビデオ会議で試してみたが、しっかり声の情報を拾ってくれることがわかった。*1

なお、通話用デバイスとの接続をしている際はANCは無効になり、通話時にはマイクを通して自分の声も聞こえる「側音」が有効になる。また「片耳モード」対応で、左右どちらでも片方だけで使うこともできる。通話時は周囲の音も聞こえる方が安全面でもメリットがあるし、片側のみを使えば閉塞感も抑えられて便利だろう。

最後にサウンドだが、繊細で情報量が多く、若干ビビッドな明るいキャラクター。歌声はナチュラルに高域まで美しく伸びて、適度に存在感を主張する。ピアノは音の生音らしさだけでなく、響きも丁寧に再現し、コーラスの音の広がりも厚みもあつ、空間の中で自然に広がっていく。低音もタイトに締まり、バランスが整ったサウンドだ。このように、Elite 4 Activeはそのままで十分以上に高品位なサウンドを楽しめるのだが、Jabra Sound+アプリにある6種類のプリセットイコライザーを用いて、さらなるカスタマイズも可能だ。

標準状態の「フラット」から、たとえば「音声」を選択すると、低域が控えめ味になって歌声の存在感が増す。「低音ブースト」ではリッチな重低音サウンドを、「トレブルブースト」は高域にフォーカスしたサウンドが楽しめる。「スムーズ」は高域を若干抑えた音に、「エネルギー」ではハイとローを強調した音楽再生が可能だ。このイコライザー機能は、効かせ具合も微調整が可能のため、音質調整が初めてでも活用しやすいだろう。

Elite 4 Activeを試してみても感じたのは、「オールマイティな魅力」だ。運動でも使える抜群の装着感の良さに、IP57準拠の防塵防水/耐汗仕様、あらゆる場面で有用なANC機能、通話マイクの品質の高さ、そしてサウンドは音楽をしっかりと楽しませてくれる高音質を実現している。2022年の完全ワイヤレスイヤホン新基準になりうる、「贅沢過ぎる入門モデル」として、安心して推薦できる鉄板の一台となるだろう。

DETAIL



さりげなく、スマートな本体

エルゴノミックな形状で、すべりにくいマット加工が施されたイヤホン本体。ウイング部分なしでも耳にしっかり固定されるのが特長。遮音性が高く、ノイズキャンセリング性能を高めるのにも効いている。IP57防塵防水設計でタフに使えるので、スポーツ用途にも最適だ。物理ボタンで誤動作が少ないのもいい。片耳再生だって可能。お気に入りの曲やプレイリストをすぐに呼び出せるように「Spotify Tap」再生にも対応している。



ANCをパーソナライズ

Jabraといえば先進的なアプリも魅力的。本機では「ANCのパーソナライズ」が可能。イヤージェルの装着状態や、左右の耳での聞こえ方の違いを補正して、ユーザーにとって最適なノイズキャンセリング効果が得られるように調整してくれる。そのほかANCとヒアスルーの切り替えやオンオフ、音楽用イコライザーの調整などが可能だ。

LINEUP



テレワーク大賞



ノイズキャンセリング
完全ワイヤレスイヤホン

Jabra Elite 7 Pro

¥27,280(税込)

▶投票 No.004

SPEC ●通信方式:Bluetooth 5.2 ●コーデック:SBC、AAC ●ドライバー:6mm ●連続再生時間:約8時間(ケース込み30時間) ●重量:5.4g ●付属品:イヤージェル(S/M/L)、USB Type-C充電ケーブル

マルチポイント接続に対応*2
圧倒的な通話品質を誇る

片側4基の高機能マイク、骨伝導センサーを搭載。それらに独自のアルゴリズムを掛け合わせた独自技術「Jabraマルチセンサーボイス」によって、圧倒的にクリアな通話品質を実現する、ノイズキャンセリング完全ワイヤレスイヤホン。ノイズが少なく、風切り音にも強く、声をクリアに届けられる。音楽再生についても、オリジナルのカスタム品となる6mmドライバーを緻密なスピーカー配置で搭載、先進アプリ「Jabra Sound+」との掛け合わせで、パーソナライズされた高品位なサウンドが楽しめる。片耳モードにも対応するほか、最新のソフトウェアアップデートによって、マルチポイント接続にも対応。テレワークの最強のパートナーとしても、おおいにお薦めできる。(編集部)

*1 本機はスマートフォンとの接続を基本推奨しており、PCとの接続に関しては、機種によって接続できない可能性もあるため、ご利用の際はご注意ください。
*2 ソフトウェアアップデートにより対応